

5. 女性の社会での雇用機会の変化

女性の社会参画はめざましく、結婚や出産後も働き続ける女性や、子育て後再就職する女性が増加している。そのような背景を踏まえて、女性が仕事と出産、育児、介護を両立させながら働く意欲を持ち続け、能力を充分発揮できるよう、以下のような制度によって条件が整えられてきた。

昭和61年に制定された男女機会均等法は、雇用における男女の均等な機会及び待遇を図るとともに、女性労働者の就業に関して、妊娠中及び出産後の健康を確保を図る等の措置を推進することを目的としている。男性と同じ待遇で働きながら、妊娠出産に関する労働時間の短縮や休業（産前・産後休暇）が保障されている。

育児休業は、1992年に施行された育児休業法に基づくもので、出産後1年間の休業が保障されている。平成8年度女子雇用管理基本調査—育児・介護休業制度等実施状況調査—から育児休業取得者をみると（表8）、出産した女性労働者の44.5%が育児休業を取得している。今後、女性労働者に対する社会的な要請から考えても、就業場所の環境が整備されれば、育児休業をとる者の割合は増加するものと考えられる。

表8 介護休業取得者の有無・人数別事業別割合

(%)

計	休業取得者ありの事業所					休業取得者なしの事業所	
	1人	2人	3人	4人	5人以上		
100.0	12.2 (100.0)	(60.9)	(26.6)	(6.2)	(1.9)	(4.4)	87.8

介護休業制度ありの事業所= 100.0%

(注) H5.4.1～H8.3.31までの3年間に介護休業を開始した者についての割合である。

平成8年度女子雇用管理基本調査—育児・介護休業制度等実施調査—による

介護休業は、1995年に企業の努力義務として導入された。平成8年度の介護休業制度のある事業所における介護休業取得者は、12.2%であり、女性常勤労働者に占める介護休業取得者の割合は0.1%に過ぎない（表9・表10）。介護休業取得期間についてみると、1～3か月未満が34.3%で、ついで3か月～1年未満が29.9%となっている。介護休業は、平成11年に育児・介護法として法的に義務づけられた。今後、要介護高齢者を抱える家族の増加が予測されることもあり、介護休業を取得する者は増加すると考えられる。

以上のような、女性労働者の雇用・労働条件などの制度上の整備は、各職場における看護職必要人数の増加につながり、看護職の需要に影響を与えるものと考えられる。

表9 女性常勤労働者に占める1年当たり介護休業取得者の割合

(%)	
区 分	割 合
産業全体	0.10%
サービス業	0.07%

表10 取得した介護休業期間別介護休業取得割合

区分							(%)
	1週間 未満	1~2週間 未満	2週間~ 1か月未満	1~3か月 未満	3か月~ 1年未満	1年以上	計
産業全体	6.5	6.9	21.3	34.3	29.9	1.1	100.0
サービス業	3.5	16.1	24.6	37.9	15.8	2.1	100.0

平成8年度女子雇用管理基本調査－育児・介護休業制度等実施調査－による

参考文献（Ⅱ章.Ⅲ章）

- 〔1〕 漆博雄編：医療経済学,東京大学出版会,1998.
- 〔2〕 厚生省監修：厚生白書 平成10年版,ぎょうせい,1998.
- 〔3〕 看護問題研究会監修：平成10年看護関係統計資料集,日本看護協会出版会,1998.
- 〔4〕 厚生省老人保健福祉局介護保険制度施行準備室監修：介護保険関係法令集,ぎょうせい,1998.
- 〔5〕 厚生省老人保健福祉局介護保険制度施行準備室監修：介護保険の手引 平成10年版,ぎょうせい,1998.
- 〔6〕 二木立：保健・医療・福祉複合体,医学書院,1998.
- 〔7〕 広井良典：医療の経済学,日本経済新聞社,1994.
- 〔8〕 有岡二郎：戦後医療の五十年,日本医事新報社,1997.
- 〔9〕 尾形裕也：今後の医療保険制度改革をめぐって,バクスターヘルスケアマネジメントジャーナル所収,1998.
- 〔10〕 診療報酬体系見直し作業委員会報告書,1999年1月.
- 〔11〕 厚生省監修：平成10年度厚生白書,ぎょうせい,1998.
- 〔12〕 日本看護系大学協議会編：21世紀に向けての看護職の教育に関する声明,1999.
- 〔13〕 労働省婦人局：平成8年度女子雇用管理基本調査,1997.
- 〔14〕 文部省：平成9年度学校基本統計調査報告書,1998.
- 〔15〕 厚生省大臣官房統計情報部：平成9年訪問看護統計調査の概況,1998.
- 〔16〕 鈴木章夫他：21世紀医学・医療懇談会第1次報告,21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して,1996.
- 〔17〕 望月哲太郎他：高等学校における看護教育充実に関する調査研究会議報告,1997.

IV 看護職需要の将来推計

1. 看護職需要の推計にあたっての基本的な考え方

看護職員の主たる就業領域を、(A) 医療施設(病院・診療所)、(B) 介護保険分野、(C) その他に区分し、それぞれについて 2010(平成 22)年時点で見込まれるサービス供給量(病床数・患者数・施設入所者定員・利用者数など)を推計する。さらにこれらのサービス供給に際し必要な看護職員数(需要数)を推計するが、これに際しては患者・入所者・利用等の数に対する看護職員配置の現状および改善の方向性、看護職員の労働時間短縮、育児・介護休業の利用等処遇の改善を見込んだ。

なお、医療機関は現在看護職員の主たる就業先であり、1997(平成 9)年時点では病院就業者数は全就業者数の約 7 割、診療所就業者数は同じく約 2 割を占める。本研究における将来推計の期間においても、看護職員需要の大部分を医療機関における需要が占めると予想され、特に病院・診療所におけるサービス供給量すなわち医療供給体制の将来像を描くことが看護職員需要推計に際しきわめて重要な意味を持つ。

しかしながら、現時点(99 年 3 月)では厚生省医療審議会において第 4 次医療法改正に向けた議論が進行中であることをはじめ、サービス供給量を左右するであろう施策の動向はいまだに不透明である。言うまでもなく本研究の目的は医療供給体制の将来像自体を描くことにあるものではないが、看護職員需要の推計は将来の医療供給体制に関する予測を前提とするものを含めて複数の方法によることとした。

病院における一般病床については従来どおり「一般病床」として総体としての病床数を予測する方法に加え、一般病床を「急性期病床」「慢性期病床」に区分し、それぞれについて病床数ならびに看護職員配置についての予測を行う方法を取った。

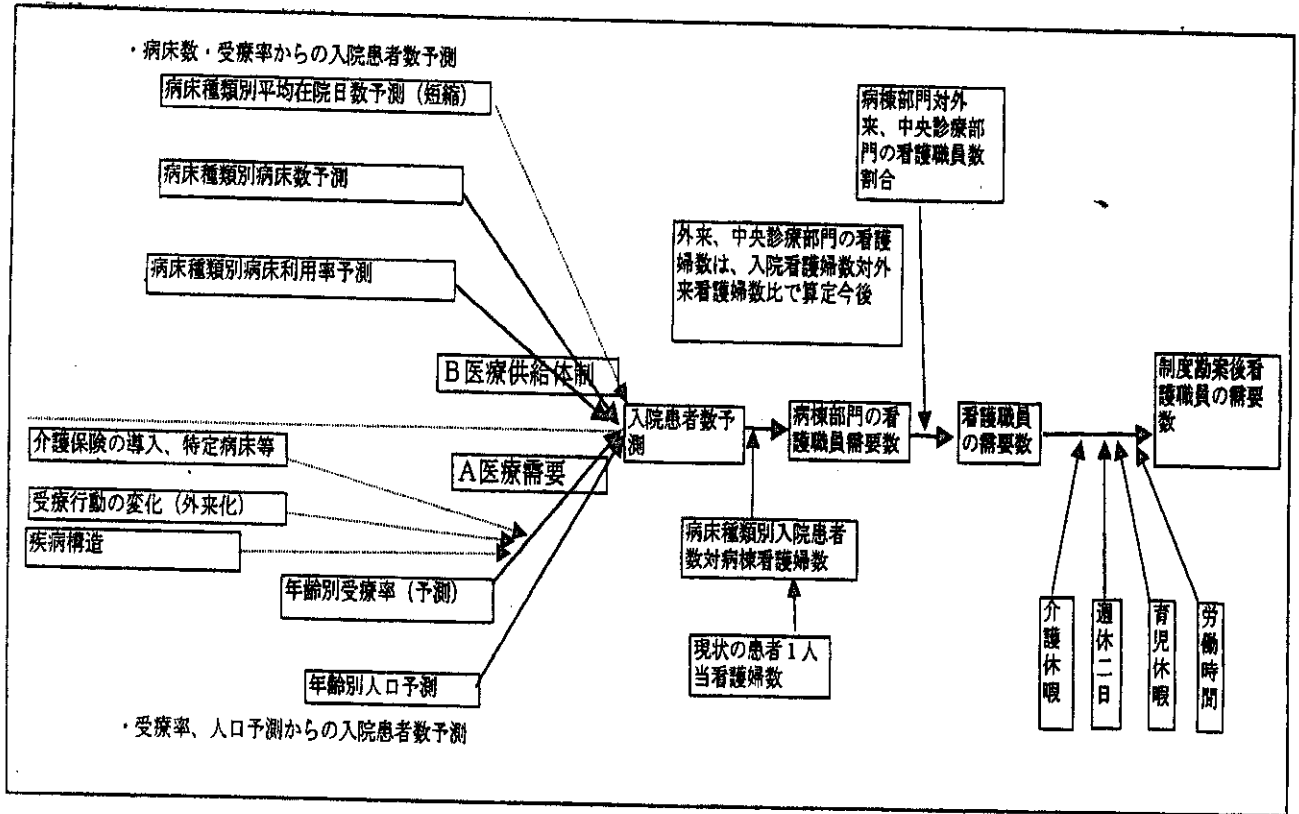
後者は一般病床が直ちに「急性期病床」「慢性期病床」として機能が区分されるべきであるとの趣旨によるものではなく、98 年以降老人病床および一部一般病床から療養型病床群への転換が急速に進行し、1999 年 1 月時点で約 15 万床を数えるに至った現在の医療供給体制再編の情勢を受けたものである。

介護保険分野の看護職員需要の推計にあたり、国により 2010 年時点におけるサービス供給量の整備目標値が示されているものについては、基本的にこれを用いることとした。しかしながら整備目標値は 1996～97 年の介護保険法審議過程で示されたものであり、2000 年 4 月の同法施行に向け今後上方修正を含めたより具体的な供給量の目標ないしは見通しが示された場合には随時見直すことが課題となる。

また医療機関におけるサービス供給量は、在宅医療・福祉および介護保険施設におけるサービス供給量と代替的な関係にあることが推測されるが、本研究においてはこの関係を考慮する必要性の指摘に止め、医療機関におけるサービス(急性・慢性病床数、入院・外来の比率、平均在院日数等)のあり方が具体的にどの程度影響を受けるかについての検討は保留した。

2. 医療機関における看護職員需要
 <病院> (図1参照)

<図1> 病院における必要看護職員数推計方法のフロー図



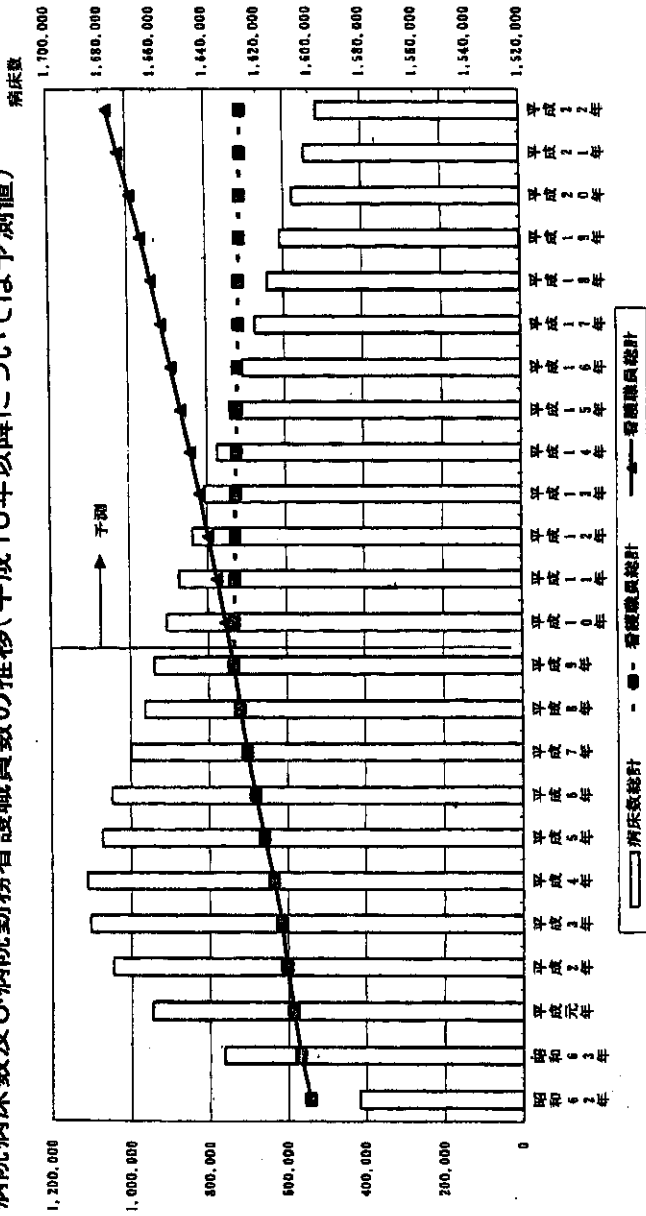
(1) 総病床数・100床当り看護職員数の動向による推計

総病床数（一般病床・精神病床・結核病床・伝染病床の総計）の推移に着目し、最近の減少傾向が今後も継続すると仮定して2010年時点の総病床数を推計する。

わが国の病院病床数は、1992(平成4)年をピークとして近年徐々に減少、一方病院に就業する看護職員総数は増加しつつある(図2)。最近5年間(1993～97年)の総病床数の前年比増加率(平均)はマイナス0.3%であり(表2)、今後毎年この比率で総病床数が減少すると仮定した場合、2010年時点での総病床数は1,597千床と推計される(図2・表1)。

病床100床あたりの看護職員数については、①1997(平成9)年時点の病床対看護職員数(100床あたり44.27人)がこれ以上増加しないものとして、および②病床対看護職員数が最近5年間(1993～97年)のペース(前年比増加率(平均)3.08%)で今後も増加するものとして、それぞれ2010年時点の病床数に対する必要看護職員数を推計する。

＜図2＞ 病院病床数及び病院勤務看護職員数の推移(平成10年以降については予測値)



＜表1＞ 病院病床数の推移 (平成10年以降については予測値: 全ての種類の病床を一括し平成5～9年の増加率を見込む)

年度	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	
病床数総計	1,680,952	1,677,041	1,669,951	1,664,629	1,660,784	1,655,780	1,650,791	1,645,817	1,640,858	1,635,914	1,630,985	1,625,071	1,621,171	1,616,286	1,611,416	1,606,561	1,601,720	1,596,894	2010

H5 - H9 年増加率平均 - 0.30%

＜表2＞ 病院病床数の推移 (平成10年以降については予測値: 病床種別毎に平成5～9年の増加率を見込む)

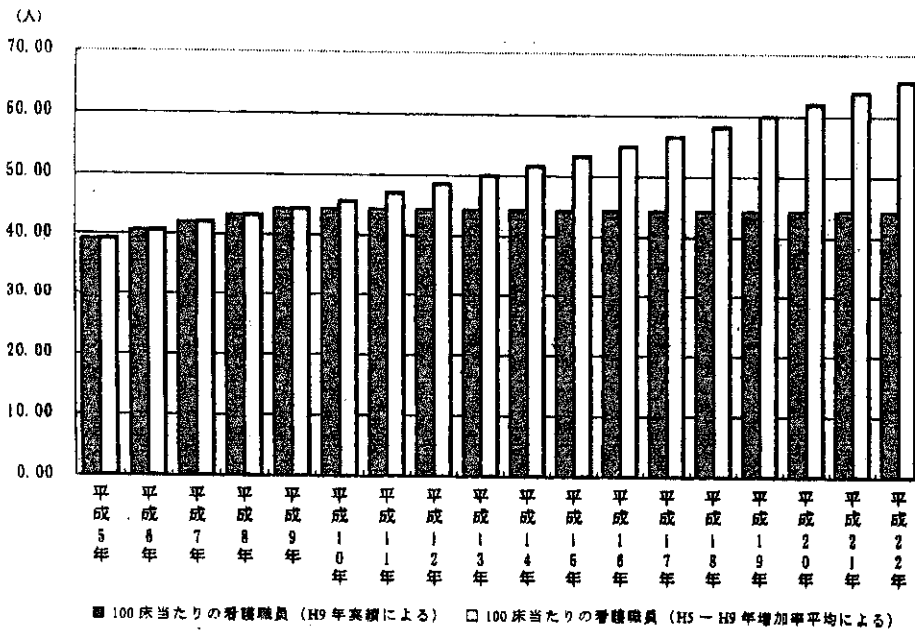
年度	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	1,270,412	1,268,466	1,265,100	1,263,338	1,262,110	1,260,043	1,257,979	1,255,919	1,253,862	1,251,809	1,249,759	1,247,712	1,245,668	1,243,628	1,241,592	1,239,558	1,237,528	1,235,501
精神病床	362,436	362,847	361,714	360,936	359,778	359,117	358,456	357,797	357,139	356,483	355,828	355,173	354,520	353,869	353,218	352,569	351,920	351,273
結核病床	31,043	35,365	34,163	31,179	29,488	27,654	26,310	24,851	23,474	22,173	20,944	19,783	18,686	17,651	16,672	15,748	14,875	14,051
伝染病床	11,061	10,343	9,974	9,716	9,408	9,035	8,677	8,332	8,002	7,685	7,380	7,087	6,806	6,536	6,277	6,028	5,789	5,559
病床数合計	1,680,952	1,677,041	1,669,951	1,664,629	1,660,784	1,655,780	1,650,791	1,645,817	1,640,858	1,635,914	1,630,985	1,625,071	1,621,171	1,616,286	1,611,416	1,606,561	1,601,720	1,596,894

H5 - H9 年増加率平均 一般: - 0.16% 精神: - 0.18% 結核: - 5.54% 伝染: - 3.97%

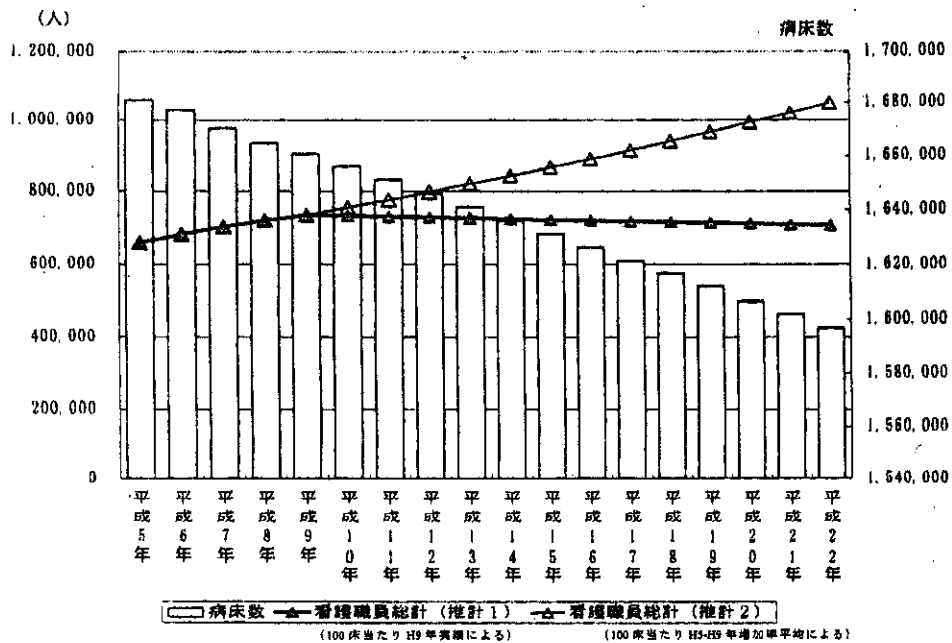
将来の看護職員の処遇改善に関しては、①の推計においては現状維持、②の推計においては近年着実に改善されてきた看護職員の処遇(注1)のさらなる改善が、病床あたり看護職員数の増として読み込まれているものとする。

- ① 2010年における100床あたり看護職員数は、97年同様44.27人(図3)、総病床数1,597床に対する必要看護職員数は約707千人となる(図4)。
- ② 2010年における100床あたり看護職員数は65.62人(図3)、総病床数に対する必要看護職員数は約1,048千人となる(図4)。

<図3>病床100床当たり看護職員数(実績・推計(平成10年以降については予測値))



<図4>病院勤務看護職員数(実績・推計(平成10年以降については予測値))



<表3> 入院患者数の推移（平成10年以降については予測値：平成9年の病床利用率による推計）

平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
1,069,631	1,049,011	1,044,328	1,044,367	1,043,765	1,042,056	1,040,349	1,038,645	1,036,944	1,035,246	1,033,550	1,031,858	1,030,168	1,028,481	1,026,795	1,025,115	1,023,436	1,021,760
319,603	318,388	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918	318,918
15,743	15,039	14,094	13,351	12,532	11,838	11,163	10,523	9,976	9,423	8,901	8,408	7,942	7,501	7,088	6,693	6,322	5,972
144	134	130	126	122	117	113	108	104	100	96	92	88	85	82	79	75	72
816,602	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728	816,728
187,947	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582	176,582
1,408,120	1,404,182	1,399,388	1,395,964	1,393,532	1,391,517	1,389,517	1,387,517	1,385,517	1,383,517	1,381,517	1,379,517	1,377,517	1,375,517	1,373,517	1,371,517	1,369,517	1,367,517
1,421,439	1,420,470	1,419,828	1,419,091	1,418,600	1,418,436	1,418,246	1,418,031	1,417,791	1,417,526	1,417,246	1,416,951	1,416,641	1,416,316	1,415,986	1,415,651	1,415,311	1,414,966

<表4> 入院患者数の推移（平成10年以降については予測値：平成5-9年の病床利用率（平均）による推計）

平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
1,041,273	1,042,679	1,039,912	1,038,053	1,037,454	1,036,765	1,036,076	1,035,387	1,034,698	1,034,009	1,033,320	1,032,631	1,031,942	1,031,253	1,030,564	1,029,875	1,029,186	1,028,497
340,777	342,165	341,096	340,325	339,271	338,447	337,623	336,800	335,976	335,153	334,329	333,506	332,683	331,860	331,037	330,214	329,391	328,568
15,854	15,145	14,194	13,345	12,521	11,931	11,341	10,751	10,161	9,571	8,981	8,391	7,801	7,211	6,621	6,031	5,441	4,851
133	124	120	117	113	109	105	101	97	93	89	85	81	77	73	69	65	61
864,664	867,778	869,994	872,337	874,806	877,385	880,064	882,843	885,722	888,701	891,780	894,959	898,238	901,617	905,096	908,675	912,354	916,133
177,044	181,918	184,781	187,644	190,507	193,370	196,233	199,096	201,959	204,822	207,685	210,548	213,411	216,274	219,137	222,000	224,863	227,726
1,492,643	1,490,113	1,489,322	1,489,439	1,489,459	1,489,479	1,489,499	1,489,519	1,489,539	1,489,559	1,489,579	1,489,599	1,489,619	1,489,639	1,489,659	1,489,679	1,489,699	1,489,719
1,397,533	1,397,129	1,396,176	1,395,415	1,394,829	1,394,343	1,393,857	1,393,371	1,392,885	1,392,399	1,391,913	1,391,427	1,390,941	1,390,455	1,389,969	1,389,483	1,388,997	1,388,511

<表5> 病院病床数の推移（平成10年以降については予測値：一般病床を「急性期病床」「慢性期病床」に区分し病床数を推計）

平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
1,065,855	1,072,222	1,054,900	1,041,671	1,028,276	999,766	971,593	953,755	936,243	919,054	902,180	885,615	869,355	853,383	837,725	822,344	807,246	792,424
2,823	10,735	20,758	37,872	56,522	76,331	96,715	117,133	137,919	158,219	178,077	197,436	216,333	234,719	252,595	270,011	286,918	303,334
181,734	185,509	189,362	193,285	197,310	201,408	205,567	209,787	214,066	218,404	222,801	227,256	231,771	236,346	240,971	245,646	250,371	255,146
382,436	382,847	381,714	380,836	379,778	378,719	377,660	376,601	375,542	374,483	373,424	372,365	371,306	370,247	369,188	368,129	367,070	366,011
37,043	35,385	33,163	31,179	29,488	27,955	26,512	25,169	23,926	22,783	21,740	20,797	19,954	19,211	18,568	17,925	17,282	16,639
1,061	10,343	9,974	9,716	9,468	9,210	8,952	8,694	8,436	8,178	7,920	7,662	7,404	7,146	6,888	6,630	6,372	6,114
1,680,952	1,677,041	1,669,951	1,664,639	1,660,784	1,658,510	1,656,367	1,654,353	1,652,469	1,650,714	1,649,087	1,647,589	1,646,210	1,644,951	1,643,812	1,642,793	1,641,894	1,641,015

結核病床・伝染病床についてそれぞれ最近5年間の平均病床利用率を乗じた推計患者数とあわせた総患者数は約1,353千人と推計する(表4)。

② 一般病床を a)急性期病床 b)慢性期病床に区分し、それぞれについて病床数及び患者数を推計する方法

a) 急性期病床

病床区分における一般病床から療養型病床群及び老人病床(特例許可老人病床を含む)を除いた病床を「急性期病床」とし、最近5年間(93～97年)の動向により2010年時点の病床数を推計する。

一般病床総数から除くべき療養型病床群病床数は94～97(平成6～9)年の実績数とする。老人病床数は93年・96年の実績数に基づいて94・95・97年の病床数を推計したものである。この結果「急性期病床」の最近5年間(93～97年)の前年比増加率(平均)はマイナス1.84%となり、2010年時点での「急性期病床」数は約792千床と推計される(表5)。

急性期病床の推計患者数は、97年実績による一般病床の病床利用率(82.7%)を病床に乗じた計算方法によれば、約655千人(表3)、最近(94～97年)の上記「急性期病床」の平均病床利用率(一般病床から療養型病床群及び老人病床の病床利用率(老人病床については療養型病床群の病床利用率と同様と仮定)を区分し再計算したもの)(80.0%)を乗じる計算方法によれば約634千人と推計される(表4)。

b) 慢性期病床

「慢性期病床」は療養型病床群とし、現行特例許可老人病床から療養型病床群への転換分を見込んだ上で2010年時点の病床数を推計する。

特例許可老人病床については、介護保険法施行(2000年4月)後3年間に限り経過措置として介護療養型医療施設の指定を受けることは可能であるが、その後は適用を受けることはできず、また99年4月以降の新規開設は認められない。このような情勢のもと、現在特例許可老人病床を含む老人病床については療養型病床群への転換が進んでおり、2002年度末には療養型病床群への転換が終了するものとする。

老人病床から療養型病床群への転換に際しては既存病床の1床あたり面積の拡大が不可避と見られるため、面積拡大によって減床される病床数を見込む。転換後の療養型病床群の「完全型」および「移行型」の構成比は最近の実績(完全型40%、移行型60%)によるものとする。

既存の療養型病床群については、最近(94～97年)の動向により98年の病床数を見込んだうえで、99年以降老人病床からの転換分を含めて2002年に238千床に達し、その後は2010年まで増減がないものとする(表6)。

慢性期病床の推計患者数は、97年実績による療養型病床群の病床利用率(91.0%)を病床数に乗じた計算方法によれば約217千人(表3)、最近(94～97)の療養型病床群の平均病床利用率(92.7%)を乗じる計算方法によれば約221千人と推計される(表4)。

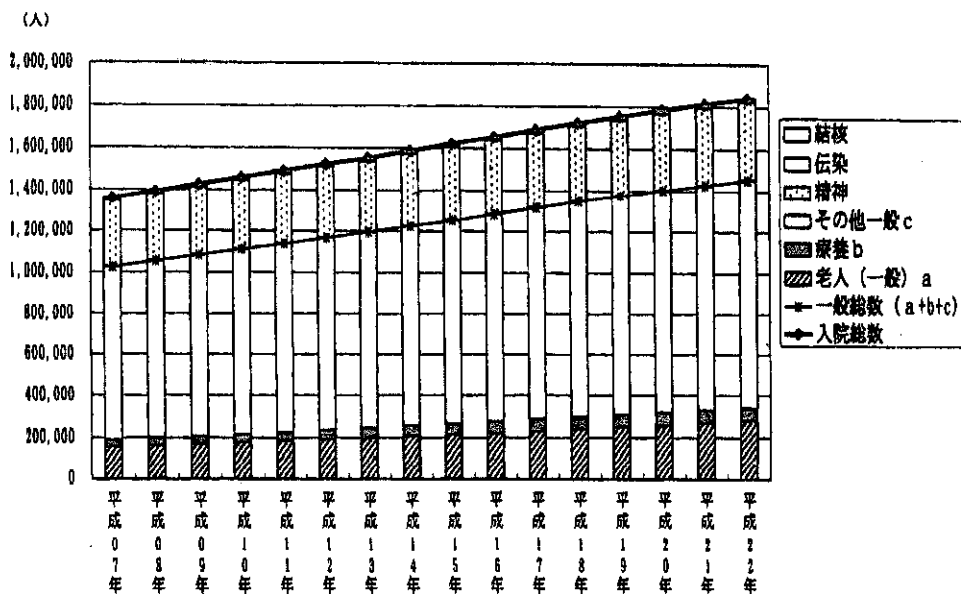
上記の方法により一般病床を急性期病床及び慢性期病床に区分した上、97年実績による病床利用率により得た急性期病床の推計患者数約655千人・慢性期病床の推計患者数約217千人に、精神病床・結核病床・伝染病床についてそれぞれ97年実績による病床利用率を乗じた推計患者数とあわせた総患者数は約1,207千人と推計する(表3・総計(下))。同様に、最近(94～97年)の平均病床利用率により得た急性期病床の推計患者数約634千人・慢性期病床の推計患者数約221千人に、精神病床・結核病床・伝染病床についてそれぞれ最近5年間の平均病床利用率を乗じた推計患者数とあわせた総患者数は約1,192千人と推計する(表4・総計(下))。

(3) 受療率および将来人口予測による患者数の推計

年齢階層別受療率(表7)および将来人口推計(表8)をもとに、2010年時点の患者数を推計する。

高齢者の受療率は他の年齢層と比較して高く、人口構成に占める高齢者の比率が高まると人口全体の受療率が上昇、患者数の増加を見る。94年時点の医療供給体制及び患者の受療行動が2010年時点で変わっていないと仮定したうえで、94年時点での年齢階層別病床区分別受療率を2010年時点での年齢別人口構成に当てはめれば、推計患者総数は約1,843千人、うち、老人病床は約277千人、療養型病床群約58千人、老人・療養型を除く一般病床が約1,119千人(P5)である(表7・図6)。

<図6> 受療率及び将来人口予測による推計患者数



<表6> 慢性期病床数の推計

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	
老人病床病床数	181,734	186,509	189,362	193,295	197,310	201,408	151,056	100,704	50,352										
移行病床数							50,352	50,352	50,352	50,352									
療養完全型で移行						53,977	13,494	13,494	13,494	13,494									
療養移行型で移行						85,800	21,450	21,450	21,450	21,450									
療養型病床数合計	2,823	10,735	20,758	37,872	56,522	98,381	133,275	188,219	203,163	238,107	238,107	238,107	238,107	238,107	238,107	238,107	238,107	238,107	238,107

老人病床は、平成5年から平成9年までの伸び率で平成10年まで推計、療養型病床数は、平成6年から平成9年までの伸び率で平成10年まで推計。
平成10年の老人病床が、4年間かけて療養型病床数になるとした。その際には、完全型が40%、移行型が60%とした（過去の実績より算出）。
なお、老人病床は病床面積が4.3㎡、完全型が4.4㎡、移行型が6.0㎡なので、その割合に応じて病床は減少するものとした。（0.67倍、0.71倍）

<表7> 病床種別毎の将来患者予測（平成8年「患者調査」による年齢別受療率および将来推計人口による推計）

入院総数	精神			伝染	結核	一般総数 (a+tb+c)			老人 (一般) a	療養 b	その他一般 c	外来総数		外来/入院	予測人口 (千人)					
	入院総数	精神	結核			一般総数 (a+tb+c)	老人 (一般) a	療養 b				その他一般 c	外来			入院				
平成07年	1,358,193	320,621	0	12,441	1,025,077	154,757	33,750	836,570	2,215,603	1.63	125,570									
平成08年	1,392,023	325,309	0	12,751	1,053,909	161,815	35,191	856,902	2,255,160	1.62	125,808									
平成09年	1,426,365	329,836	0	13,061	1,083,414	169,281	36,705	877,428	2,294,641	1.61	126,158									
平成10年	1,459,082	334,032	0	13,354	1,111,644	176,453	38,158	897,033	2,332,266	1.60	126,418									
平成11年	1,491,436	337,995	0	13,642	1,139,749	183,690	39,616	916,441	2,369,086	1.59	126,665									
平成12年	1,523,698	341,600	0	13,910	1,168,142	191,616	41,206	935,320	2,401,433	1.58	126,892									
平成13年	1,553,958	344,283	0	14,164	1,195,475	199,267	42,731	953,477	2,432,032	1.57	127,098									
平成14年	1,588,445	347,996	0	14,475	1,225,932	207,162	44,343	974,426	2,470,562	1.56	127,289									
平成15年	1,622,485	351,703	0	14,782	1,255,950	215,012	45,949	994,989	2,508,051	1.55	127,451									
平成16年	1,654,571	355,365	0	15,073	1,284,071	222,392	47,466	1,014,213	2,542,528	1.54	127,579									
平成17年	1,689,550	358,734	0	15,354	1,315,391	231,756	49,335	1,034,300	2,574,636	1.52	127,684									
平成18年	1,723,442	361,694	0	15,630	1,346,040	240,829	51,154	1,054,057	2,605,858	1.51	127,751									
平成19年	1,755,880	364,482	0	15,886	1,375,428	249,833	52,948	1,072,648	2,634,041	1.50	127,788									
平成20年	1,786,503	367,190	0	16,117	1,403,107	258,767	54,713	1,089,626	2,657,776	1.49	127,771									
平成21年	1,814,552	369,680	0	16,319	1,428,461	267,318	56,390	1,104,753	2,677,373	1.48	127,720									
平成22年	1,842,674	372,175	0	16,505	1,453,897	276,540	58,180	1,119,177	2,692,993	1.46	127,623									
H22/H08	132%	114%		129%	138%	171%	165%	131%	119%											101%

<表8> 性、年齢（5歳階級）別将来推計人口

(千人)

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
総数	126,156	126,420	126,665	126,892	127,100	127,286	127,447	127,581	127,684	127,752	127,782	127,772	127,719	127,623
0歳	1,215	1,217	1,223	1,231	1,239	1,245	1,248	1,248	1,246	1,241	1,233	1,223	1,210	1,196
1～4歳	4,778	4,800	4,810	4,841	4,858	4,883	4,910	4,934	4,953	4,959	4,956	4,942	4,916	4,878
5～9歳	6,233	6,105	6,032	5,982	5,977	5,973	5,998	6,014	6,053	6,078	6,108	6,139	6,165	6,179
10～14歳	7,173	6,977	6,755	6,549	6,378	6,234	6,106	6,032	5,983	5,977	5,975	6,000	6,017	6,055
15～19歳	7,997	7,793	7,642	7,481	7,332	7,171	6,975	6,733	6,546	6,375	6,232	6,102	6,029	5,982
20～24歳	9,571	9,235	8,861	8,537	8,211	7,968	7,766	7,613	7,456	7,306	7,146	6,950	6,731	6,523
25～34歳	17,755	18,179	18,541	18,698	19,122	19,057	18,943	18,736	18,434	18,017	17,534	16,994	16,470	15,987
35～44歳	16,024	15,843	15,813	15,904	15,716	16,008	16,267	16,524	16,844	17,238	17,666	18,087	18,449	18,605
45～54歳	19,636	19,551	19,303	19,390	19,526	18,755	17,924	17,119	16,507	16,038	15,710	15,535	15,510	15,603
55～64歳	16,031	16,248	16,528	16,410	16,133	16,696	17,409	18,241	18,657	18,773	18,735	18,651	18,414	18,489
65～69歳	6,718	6,864	6,959	7,094	7,225	7,309	7,321	7,243	7,302	7,453	7,657	7,849	8,184	8,019
70～74歳	5,262	5,516	5,741	5,891	6,039	6,191	6,330	6,422	6,550	6,676	6,757	6,771	6,698	6,758
75～79歳	3,520	3,685	3,921	4,103	4,363	4,601	4,821	5,018	5,153	5,288	5,426	5,553	5,638	5,754
80～84歳	2,416	2,453	2,453	2,583	2,666	2,785	2,925	3,112	3,265	3,476	3,663	3,838	3,995	4,106
85歳以上	1,829	1,952	2,083	2,198	2,313	2,413	2,508	2,579	2,734	2,856	2,990	3,137	3,294	3,489
高齢化率	15.651%	16.192%	16.703%	17.234%	17.786%	18.304%	18.757%	19.105%	19.584%	20.155%	20.733%	21.247%	21.774%	22.038%
65歳以上	19,745	20,470	21,157	21,869	22,606	23,299	23,905	24,374	25,005	25,749	26,493	27,148	27,809	28,126
総数	126,156	126,420	126,665	126,892	127,100	127,286	127,447	127,581	127,684	127,752	127,782	127,772	127,719	127,623

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

(4) 患者数に対する必要な看護職員数の検討およびこれに基づく看護職員需要推計(表9参照)

<看護職員配置および処遇の現状>

直近の統計資料による患者対看護職員数、ならびに看護職員の労働条件・処遇を以下に示す。

- a) 病院病床 100 床対看護職員数：44.72 人(97 年「医療施設調査・病院報告」による。一般・精神・結核・伝染病のすべての病床区分をあわせた総病床について、病棟・外来を含む院内すべての看護職員数を示す)
- b) 入院患者対病棟配置看護職員数：一般病床(療養・老人病床を除く)2.08 対 1(97 年 7 月 1 日「看護料等届け出状況」(厚生省保険局医療課)による。「新看護」「基準看護」「その他看護」を届け出た病床総数およびこれらの病床に配置された看護職員数による)、療養病床 4.07 対 1(95 年「病院看護基礎調査」(日本看護協会)による。老人病棟入院医療管理料または療養型病床群入院医療管理料算定病棟の配置実態による)
- c) 病棟および病棟以外の部門(外来・手術室・看護管理部門等)との看護職員構成比：急性期病院：病棟 7：病棟以外 3、慢性期病院：病棟 9、病棟以外 1(95 年「病院看護基礎調査」(日本看護協会)による。「急性期病院」は、総合病院・特定機能病院の実績値、「慢性期病院」は「老人病床を主とする病院」の実績値)
- d) 推計年間労働時間：1952.1 時間
年間有給休暇取得日数 9.0 日(97 年「看護職員実態調査」(日本看護協会)・病院勤務正職員)
月間時間外労働 9 時間 56 分(同上)
夏期休暇日数 3.6 日(95 年「病院看護基礎調査」(日本看護協会))
年間労働時間数推計
{週所定労働時間 40 時間 × (365 日 / 7 日)} - {年間祝日 13 日(元旦除く) + 年末年始休暇 6 日 + 夏期休暇 3.6 日 + 有給休暇 9.0 日} + (月間時間外労働 9 時間 56 分 × 12 ヶ月) = 1952.1 時間
- e) 年間出産率：4.4 % (女子看護職員総数に対する年間出産率。95 年「病院看護基礎調査」(日本看護協会)による年間出産率を、96 年「医療施設調査・病院報告」による設置主体別従事者数により補正して得た数値)
- f) 育児休業取得率・育児休業期間：出産者の 67.3 % が取得し取得者の平均育児休業期間は 7.1 ヶ月(資料および推計方法は上記 d) に同じ)
- g) 介護休業取得率・介護休業期間：女子労働者の 0.07 % が取得し取得者の平均介護休業期間は 29.7 日(96 年「女子雇用管理基本調査」(労働省)による。サービス産業従事女子常用労働者に占める 95 年度の介護休業取得率。)

<看護職員配置および処遇の改善の目安>

- a) 年間労働時間を 1800 時間程度とする。週所定労働時間 40 時間、年間休日 36 日(年間祝日 13 日(元旦除く) + 年末年始休暇 6 日 + 夏期休暇 5 日 + 有給休暇 12 日) とし、夜勤時間数の短

縮についてもこの労働時間短縮の中で対応するものとする。年間労働時間の短縮のため現員数に対し 8.45%の増員を要する。

- b) 年間出産者比率については現状 (4.4%) 維持、育児休業取得者比率は若干上がって 70%程度、育児休業期間は 7.1 ヶ月、月 30.4 日とし延長は見込まない。改善に伴う増員は、0.1%程度と見込む。

$$\text{出産者比率} : 0.044 \times (\text{取得率の増} : 0.7 - 0.673) = 0.0011$$

- c) 介護休業取得者比率は 1%程度、介護休業期間の延長はないものと見込む。これは介護休業制度 99 年 4 月より雇用主の義務となるため今後取得率の上昇が見込まれるため、上昇率は人口高齢化を考慮した。改善に伴う増員は、0.1%程度と見込む。

$$(\text{取得率の増} : 0.01 - 0.0007) = 0.0093$$

<患者数に対する必要な看護職員数の推計>

入院患者数に対する必要な看護職員数 (病棟看護職員数) の推計にあたっては、次の 2 方式を用いた。それぞれの方法により得られた病棟看護職員数をもとに、院内他部門の看護職員配置を勘案 (上記「病棟および病棟以外の部門 (外来・手術室・看護管理部門等) との看護職員構成比」参照) し、病院全体の必要看護職員数を算出した。さらに、労働時間短縮・育児休業・介護休業の利用拡大を「処遇改善分」として勘案し、最終的な必要看護職員数とした (P 38 図 1 参照)。

- a) 現状からの必要数 (現状水準による推計) (表 9 参照)

入院患者対病棟配置看護職員数の実態に基づき、急性期病床については入院患者 2.08 対 1、慢性期病床並びに精神・結核・伝染病の各病床については患者 4.07 対 1 の比率で看護職員配置を行うものとする。

さらに院内他部門の配置を勘案した病院全体の必要看護職員数は、前述の「一般病床を総体として病床数・患者数を推計する方法」による推計患者数 (病床利用率 97 年実績) 1357 千人 (表 10・総計 (上)) (P1) に対し約 793 千人 (B1) (表 11)、推計患者数 (病床利用率最近 5 年間実績) 1353 千人 (表 12・総計 (上)) (P3) に対し約 790 千人 (B3) (表 13) と推計される。「一般病床を a) 急性期病床 b) 慢性期病床に区分し、それぞれについて病床数及び患者数を推計する方法」による推計患者数 (病床利用率 97 年実績) 1,207 千人 (表 10・総計 (下)) (P2) に対し約 601 千人 (B2) (表 11)、推計患者数 (病床利用率最近 5 年間実績) 1,192 千人 (表 12・総計 (上)) (P 4) に対し約 588 千人 (B4) (表 13) と推計される。「受療率および将来人口予測による患者数の推計」による患者数約 1,843 千人 (P5) につき、一般病床を一括して推計した必要看護職員数は約 1,104 千人 (B9) (表 14・総計 (上))、一般病床を急性期病床・慢性期病床に区分した上でそれぞれの看護職員配置を勘案した必要看護職員数は約 966 千人 (B10) (表 14・総計 (下)) と推計される。

- b) 病床 100 床当り看護職員数の最近 5 年間 (1993 ~ 97 年) の増加率に基づく必要数 (高水準による推計)

<表9> 平成22年時点の必要看護職員数推計結果

I 簡易推計		II 病床数→患者数→看護職員必要数		III 受療率→患者数→看護職員必要数	
病床数	1,596,894 (H22)	推計様式 病床数予測	①病床種別 1,606,385 (H22)	②急性慢性 1,401,415	
		病床利用率	①平成9年 82.7%	②過去5年 82.2%	
		急性慢性	82.7%	80%	
		精神	91%	92.7%	
		結核	93.7%	94.3%	
		伝染	42.5%	42.8%	
			1.3%	1.2%	
100床当看護職員数		A 患者数 (4種類)			
①今後一定		①病床種別	②急性慢性		
②今後上昇		①平成9年	①平成9年		
		P 1 1,356,947	P 2 1,207,199	P 3 1,352,913	P 4 1,191,996
		患者数 (H22)			
		患者数対看護職員数比率			
B 看護職員必要数		B 看護職員必要数			
一定	706,889	病床種別	急性慢性	急性慢性	
上昇	1,048,466 (H22)	①平成9年	①平成9年	②5年間	
		B 1 793,264	B 2 600,752	B 3 789,607	B 4 587,748
		B 5 1,170,647	B 6 886,942	B 7 1,165,254	B 8 867,767
		現状水準			
		高水準			
		各種制度の勘案(育児、介護、総労働時間)			
		C 看護職員必要数(育児、介護)			
		病床種別	急性慢性	急性慢性	
		①平成9年	①平成9年	②5年間	
		C 1 794,700	C 2 601,839	C 3 791,036	C 4 588,811
		C 5 1,172,765	C 6 888,547	C 7 1,167,363	C 8 869,337
		現状水準			
		高水準			
		C' 看護職員必要数(育児、介護、総労働時間:1800h)			
		病床種別	急性慢性	急性慢性	
		①平成9年	①平成9年	②5年間	
		C' 1 861,852	C' 2 652,694	C' 3 857,878	C' 4 638,566
		C' 5 1,271,864	C' 6 963,629	C' 7 1,266,005	C' 8 942,796
		現状水準			
		高水準			
		A 患者数 (1種類、病床種別別)			
		患者数	受療率		
		(H22)	P 5 1,842,577		
		B 看護職員必要数			
		受療率	病床種別	受療率	
		現状水準	B 9 1,104,665	B 10 966,154	
		高水準	B 11 1,630,089	B 12 1,426,200	
		C 看護職員必要数(同左)			
		受療率	病床種別	受療率	
		現状水準	C 9 1,106,664	C 10 967,902	
		高水準	C 11 1,633,039	C 12 1,428,781	
		C' 看護職員必要数(同左)			
		受療率	病床種別	受療率	
		現状水準	C' 9 1,200,177	C' 10 1,049,690	
		高水準	C' 11 1,771,031	C' 12 1,649,513	

現状の入院患者対病棟配置看護職員数(急性期 2.08 対 1、慢性期 4.07 対 1)が、病床 100 床当り看護職員数の最近 5 年間(1993～97 年)の増加率(前年比増加率(平均) 3.08%)で 2010 年まで改善されると仮定する。その結果患者対看護職員数は急性期病床で 1.41 対 1、慢性期病床で 2.75 対 1 と推計される。

さらに院内他部門の配置を勘案した病院全体の必要看護職員数は、前述の「一般病床を総体として病床数・患者数を推計する方法」による推計患者数(P1)に対し約 1,171 千人(B5)(表 15・総計(上))、推計患者数(P3)に対し約 1,165 千人(B7)(表 16・総計(上))と推計される。「一般病床を a)急性期病床 b)慢性期病床に区分し、それぞれについて病床数及び患者数を推計する方法」による推計患者数(P2)に対し約 887 千人(B6)(表 15・総計(下))、推計患者数(P4)に対し約 868 千人(B8)(表 16・総計(下))と推計される。「受療率および将来人口予測による患者数の推計」による患者数約 1,843 千人(P5)につき、一般病床を一括して推計した必要看護職員数は約 1,633 千人(B11)(表 17・総計(上))、一般病床を急性期病床・慢性期病床に区分した上でそれぞれの看護職員配置を勘案した必要看護職員数は約 1,429 千人(B12)(表 17・総計(下))と推計される。

<表10> 推計入院患者数（平成10年以降については予測値：一般病床を一括／急性・慢性・慢性に区分ごとに平成9年の病床利用率による推計）

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	1,650,631	1,049,021	1,046,239	1,044,367	1,043,765	1,042,066	1,040,349	1,038,645	1,036,941	1,035,246	1,033,550	1,031,856	1,030,160	1,028,461	1,026,766	1,025,075	1,023,386	1,021,700
精神科病床	339,603	339,988	338,928	338,169	337,112	336,052	335,074	334,094	333,110	332,127	331,143	330,159	329,175	328,191	327,207	326,223	325,239	324,255
診療科病床	15,743	15,039	14,094	13,251	12,532	11,808	11,102	10,362	9,576	8,791	8,001	7,212	6,422	5,631	4,841	4,051	3,261	2,471
回復期病床	144	134	130	126	122	117	113	108	104	100	96	92	88	85	82	78	75	72
合計	899,002	896,720	872,460	853,092	833,046	813,535	803,508	789,155	774,273	760,057	745,102	730,404	715,957	701,766	687,799	673,979	660,192	646,335
病床数	197,947	178,582	191,209	210,362	230,097	272,763	288,741	244,720	230,699	216,677	216,677	216,677	216,677	216,677	216,677	216,677	216,677	216,677
合計(上) 9年一般一括	1,406,120	1,404,102	1,399,368	1,395,904	1,393,532	1,390,503	1,387,517	1,384,571	1,381,664	1,378,794	1,375,958	1,373,155	1,370,383	1,367,642	1,364,929	1,362,243	1,359,582	1,356,947
合計(下) 9年急性慢性	1,421,459	1,420,470	1,416,028	1,415,091	1,414,600	1,413,746	1,412,817	1,411,891	1,410,971	1,409,052	1,408,133	1,407,214	1,406,295	1,405,376	1,404,457	1,403,538	1,402,619	1,401,700

<表11> 病院全体の必要看護職員数（表10の推計患者数に対し平成9年実績の看護職員配置にもとづき算出）

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	721,597	720,402	718,570	717,265	715,872	714,505	712,167	711,920	710,666	709,412	708,158	706,904	705,650	704,396	703,142	701,888	700,634	699,380
精神科病床	92,712	92,617	92,527	92,318	92,022	91,694	91,357	91,019	90,681	90,343	89,999	89,655	89,311	88,967	88,623	88,279	87,935	87,591
診療科病床	4,288	4,106	3,848	3,618	3,421	3,232	3,053	2,883	2,724	2,573	2,430	2,286	2,148	2,009	1,871	1,733	1,595	1,457
回復期病床	39	37	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
合計	618,760	617,162	615,032	613,236	611,527	609,801	608,069	606,317	604,565	602,813	601,061	599,309	597,557	595,805	594,053	592,301	590,549	588,797
合計(上) H9一般一括	618,636	617,441	615,300	613,255	611,350	609,424	607,498	605,572	603,646	601,720	600,000	598,274	596,548	594,822	593,096	591,370	589,644	587,918
合計(下) H9急性慢性	759,658	754,728	747,633	743,382	738,942	734,502	730,062	725,622	721,182	716,742	712,302	707,862	703,422	698,982	694,542	690,102	685,662	681,222

<表 1 2> 推計入院患者数

(平成 10 年以降については予測値：一般病床を一括／急性・慢性・慢性に区分ごとに平成 5～9 年の病床利用率 (平均) による推計)

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	1,044,270	1,042,879	1,039,912	1,038,063	1,037,454	1,035,755	1,034,659	1,032,565	1,030,575	1,028,587	1,027,302	1,025,619	1,023,939	1,022,252	1,020,569	1,018,917	1,017,248	1,015,582
精神科病床	341,777	342,165	341,096	340,325	339,271	338,047	336,783	335,483	334,153	332,803	331,435	330,059	328,678	327,292	325,905	324,472	323,051	321,251
産科病床	15,054	15,145	14,194	13,345	12,621	11,921	11,261	10,636	10,047	9,490	8,964	8,467	7,998	7,564	7,136	6,740	6,367	6,014
伝染科病床	133	124	120	117	113	109	104	100	96	92	89	85	82	78	75	72	69	67
急性期	688,684	687,778	684,984	682,371	680,622	679,313	677,275	675,243	673,196	671,144	669,092	667,044	665,000	662,957	660,916	658,875	656,836	654,796
慢性期	171,064	181,918	194,781	214,292	235,302	277,658	283,575	289,292	295,068	298,725	298,725	298,725	298,725	298,725	298,725	298,725	298,725	298,725
合計(上) 5年間の一般	1,402,043	1,404,113	1,395,822	1,391,639	1,389,459	1,386,432	1,383,448	1,380,465	1,377,600	1,374,732	1,371,869	1,369,100	1,366,332	1,363,563	1,360,804	1,358,202	1,355,445	1,352,913
合計(下) 5年間の急性慢性	1,397,533	1,397,129	1,394,175	1,393,415	1,393,929	1,393,347	1,390,238	1,389,434	1,389,928	1,391,714	1,391,967	1,392,698	1,393,399	1,394,171	1,394,201	1,394,885	1,394,919	1,394,956

<表 1 3> 病院全体の必要看護職員数 (表 1 2 の推計患者数に対し平成 9 年実績の看護職員配置にもとづき算出)

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	712,224	715,126	714,225	712,940	712,637	711,370	710,285	709,042	707,861	706,722	705,604	704,489	703,265	702,103	700,953	699,806	698,659	697,515
精神科病床	93,305	93,411	93,119	92,909	92,621	92,451	92,281	92,111	91,942	91,773	91,604	91,435	91,267	91,100	90,932	90,765	90,598	90,432
産科病床	4,328	4,155	3,875	3,640	3,445	3,258	3,074	2,904	2,743	2,591	2,447	2,312	2,183	2,062	1,948	1,840	1,738	1,642
伝染科病床	26	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8
急性期	566,024	568,153	570,059	568,853	567,659	566,477	565,302	564,141	562,985	561,838	560,691	559,544	558,397	557,250	556,103	554,956	553,809	552,662
慢性期	48,705	49,664	51,175	52,933	54,238	55,655	57,072	58,489	59,906	61,323	62,740	64,157	65,574	66,991	68,408	69,825	71,242	72,659
合計(上) 5年間の一般	814,054	813,705	811,552	809,532	807,635	805,786	803,958	802,140	800,322	798,510	796,700	794,889	793,078	791,267	789,456	787,645	785,834	784,023
合計(下) 5年間の急性慢性	749,099	755,376	759,982	761,539	763,234	764,931	766,628	768,325	770,022	771,719	773,416	775,113	776,810	778,507	780,204	781,901	783,598	785,295

<表 1 4> 病院全体の必要看護職員数 (受療率に基づき推計入院患者数に対し平成 9 年実績の看護職員配置にもとづき算出)

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	0	0	704,036	728,039	744,189	760,422	776,785	793,256	810,000	827,000	844,000	861,000	878,000	895,000	912,000	929,000	946,000	963,000
精神科病床	0	0	87,530	88,660	89,810	91,151	92,273	93,405	94,537	95,669	96,801	97,933	99,065	100,197	101,329	102,461	103,593	104,725
産科病床	0	0	3,395	3,481	3,566	3,651	3,736	3,821	3,906	3,991	4,076	4,161	4,246	4,331	4,416	4,501	4,586	4,671
伝染科病床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急性期	0	0	574,567	582,532	590,497	600,054	609,611	619,168	628,725	638,282	647,839	657,396	666,953	676,510	686,067	695,624	705,181	714,738
慢性期	0	0	51,462	53,707	55,952	58,197	60,442	62,687	64,932	67,177	69,422	71,667	73,912	76,157	78,402	80,647	82,892	85,137
合計(上) 受療率一般	0	0	754,952	816,129	837,714	858,398	870,722	882,390	894,911	907,432	920,000	932,519	945,038	957,557	970,076	982,595	995,114	1,007,633
合計(下) 受療率急性慢性	0	0	716,956	734,665	752,714	770,519	788,324	806,129	823,934	841,739	859,544	877,349	895,154	912,959	930,764	948,569	966,374	984,179

<表 15> 病院全体の必要看護職員数 (表 10 の推計患者数に対し平成 5 ~ 9 年の増加率にもとづき推計される看護職員配置水準で算出)

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	1,064,469	1,052,638	1,060,018	1,058,123	1,057,513	1,054,781	1,054,052	1,052,325	1,050,602	1,048,881	1,047,163	1,045,449	1,043,736	1,042,027	1,040,320	1,038,617	1,036,916	1,035,217
精神科病床	137,213	137,389	136,940	136,630	136,207	135,856	135,706	135,457	135,208	134,964	134,711	134,464	134,216	133,970	133,723	133,477	133,232	132,987
産科病床	6,381	6,076	5,695	5,354	5,064	4,783	4,518	4,267	4,031	3,807	3,596	3,397	3,209	3,031	2,863	2,704	2,554	2,413
在宅医療	59	54	52	51	49	47	46	44	42	40	39	37	36	34	33	32	30	29
急症科	909,850	898,407	888,070	878,439	869,429	860,317	851,144	842,009	832,877	823,744	814,611	805,477	796,345	787,212	778,079	768,946	759,813	750,680
療養科	67,857	72,154	77,256	82,995	89,328	96,207	103,677	111,707	120,292	129,031	137,924	146,971	156,174	165,533	175,056	184,745	194,590	204,593
合計(上)H9一歳一若	1,208,191	1,206,339	1,202,705	1,200,159	1,198,883	1,196,568	1,194,231	1,192,094	1,189,883	1,187,688	1,185,510	1,183,346	1,181,197	1,179,053	1,176,940	1,174,830	1,172,732	1,170,647
合計(下)H9急性増悪性	1,121,319	1,115,661	1,103,983	1,091,459	1,079,477	1,068,311	1,058,988	1,050,422	1,042,622	1,035,595	1,028,422	1,021,102	1,013,736	1,006,324	998,869	991,473	984,148	976,892

<表 16> 病院全体の必要看護職員数 (表 12 の推計患者数に対し平成 5 ~ 9 年の増加率にもとづき推計される看護職員配置水準で算出)

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	1,058,033	1,056,412	1,053,609	1,051,725	1,049,779	1,047,779	1,045,725	1,043,622	1,041,468	1,039,264	1,037,010	1,034,707	1,032,354	1,029,951	1,027,498	1,025,095	1,022,642	1,020,189
精神科病床	138,092	138,248	137,817	137,375	136,923	136,471	136,019	135,567	135,115	134,663	134,211	133,759	133,307	132,855	132,403	131,951	131,499	131,047
産科病床	6,406	6,119	5,735	5,392	5,059	4,726	4,393	4,060	3,727	3,394	3,061	2,728	2,395	2,062	1,729	1,396	1,063	730
在宅医療	54	50	48	47	46	44	42	40	39	37	36	34	33	32	30	29	28	27
急症科	888,128	889,076	885,100	883,207	881,247	879,282	877,312	875,343	873,374	871,404	869,435	867,465	865,496	863,526	861,557	859,587	857,617	855,647
療養科	69,125	73,802	78,689	83,593	88,512	93,431	98,350	103,269	108,188	113,107	118,026	122,945	127,864	132,783	137,702	142,621	147,540	152,459
合計(上)5年前一歳一若	1,202,594	1,200,830	1,197,289	1,194,689	1,192,043	1,189,397	1,186,751	1,184,105	1,181,459	1,178,813	1,176,167	1,173,521	1,170,875	1,168,229	1,165,583	1,162,937	1,160,291	1,157,645
合計(下)5年前急性増悪性	1,083,802	1,080,988	1,077,400	1,085,734	1,084,542	1,083,350	1,082,158	1,080,966	1,079,774	1,078,582	1,077,390	1,076,198	1,075,006	1,073,814	1,072,622	1,071,430	1,070,238	1,069,046

<表 17> 病院全体の必要看護職員数(受療率に基づく推計入院患者数に対し平成 5 ~ 9 年の増加率にもとづき推計される看護職員配置水準で算出)

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般病床	0	0	1,038,578	1,037,790	1,037,004	1,036,218	1,035,432	1,034,646	1,033,860	1,033,074	1,032,288	1,031,502	1,030,716	1,029,930	1,029,144	1,028,358	1,027,572	1,026,786
精神科病床	0	0	139,544	131,438	133,287	134,982	136,564	138,020	139,104	140,604	142,108	143,592	144,943	146,139	147,265	148,359	149,366	150,374
産科病床	0	0	5,027	5,152	5,277	5,395	5,512	5,629	5,743	5,848	5,972	6,090	6,203	6,315	6,419	6,512	6,593	6,669
在宅医療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急症科	0	0	847,589	858,189	868,965	879,840	890,812	901,884	913,055	924,326	935,697	947,168	958,739	970,310	981,881	993,452	1,005,023	1,016,594
療養科	0	0	75,164	79,599	83,227	86,712	90,225	93,669	97,077	100,431	103,735	106,989	110,193	113,347	116,451	119,505	122,509	125,463
合計(上)受療率一歳一若	0	0	1,173,149	1,204,380	1,236,228	1,266,644	1,296,536	1,327,169	1,356,047	1,383,531	1,410,567	1,437,156	1,463,299	1,488,983	1,514,223	1,539,019	1,563,255	1,586,989
合計(下)受療率急性増悪性	0	0	1,058,323	1,064,377	1,110,756	1,135,917	1,160,813	1,185,350	1,209,639	1,233,332	1,256,607	1,280,277	1,303,342	1,325,796	1,347,549	1,369,503	1,390,756	1,411,309